

地域に根ざし 地域と共に歩んだ69年

# 洞爺湖温泉中学校閉校記念式典



69年の校史に幕を閉じた洞爺湖温泉中学校閉校記念式典

今年度で閉校となる洞爺湖温泉中学校（大年智二校長）の閉校記念式典が、2月27日、同校の体育館で行われ、在校生や卒業生、来賓など約300名が出席して、69年の校史を振り返りました。洞爺湖温泉の人口減少が進み、教育委員会では、今年4月1日から虻田中学校との統合を決定。昨年は、虻田中と温泉中への進路の選択制を導入し、温泉中の生徒は4人となっていました。

同中は、昭和22年旧電鉄駅舎を仮校舎として借用し、2学級63人編成で開校しました。温泉街の発展や昭和52年（1977年）噴火の地殻変動などにより、仮校舎を含めて4回の移動を強いられました。このような変遷を刻みながらも約2、800名の卒業生を輩出し、地域に根ざし、地域と共に歩んできました。式典では、真屋敏春町長が

「地域の人に支えられてきた誇りあるこの歩みは、決して消えることはなく、みんなの心の中に生き続けることでしょう」と式辞を述べました。

次に、閉校記念事業協賛会長の篠原功さんが「69年の長い間、支えてくださいました数多くの皆様に本当にありがとうございました」と申しあげます」と挨拶し、来賓あいさつに続いて大年智二校長が「有珠山噴火の困難に耐え、前向きに生きる住民の皆さんの姿は、生徒への無言の教えであり、温泉中の精神として息づいている」と伝統を讃えました。最後の卒業生4人を代表して竹澤遥さんは「学校で培った伝統を胸に刻み、未来に向かって進んでいきたい」と力強く述べました。

最後に参加者全員で校歌を合唱し、思い出が残る学び舎との別れを惜しみました。同窓会会長で第1期卒業生の島本清志さんは「さびしい。涙が出てくる。本当に残念だ」と悲しみの表情を浮かべていました。

## 洞爺湖温泉中学校 沿革の概要

- 昭和22・5・1 虻田町立洞爺湖温泉中学校と称し開校
- 昭和24・6・11 洞爺湖温泉町144番地に校舎新築落成し、移転する
- 昭和33・1・21 洞爺湖温泉町178番地に校舎新築落成、校舎落成並びに開校10周年記念式典を挙げる
- 昭和52・8・7 有珠山噴火により、夏休みを8月末まで延期する
- 昭和56・7・20 校舎移転作業開始、25日に完了する
- 平成12・3・31 有珠山噴火
- 平成12・4・17 仮校舎で始業式・入学式（長万部教室・豊浦教室）
- 平成28・2・27 洞爺湖町立洞爺湖温泉中学校閉校記念式典挙行